

第5章 重点施策

限りある資源を有効に活用して効果的な市政運営を行うために、本計画の多くの施策の中でも、以下の7つの施策を特に優先して実施する事業とする。

(1) 地域リハビリテーションの推進

すべての市民が、生涯を通して住み慣れた地域で安心して過ごすことができるように、地域生活に関わる人や組織が、保健・医療・福祉・教育などの分野を越えて連携し、継続的で体系的な支援を行っていくことができる仕組みづくりに最優先で取り組む。

(2) 子育てネットワークの多層化

すべての子どもたちが健やかに育ち、家庭が安心して子育てできるように、子どもと家族、家族と地域というこれまでの絆を補う、地域・団体・事業者・行政などの多様な主体による絆を何層にも重ね合わせていく。このような子育てネットワークづくりに最優先で取り組むことにより、一人ひとりに丁寧に対応しながら子どもと家庭の孤立を防ぐ。

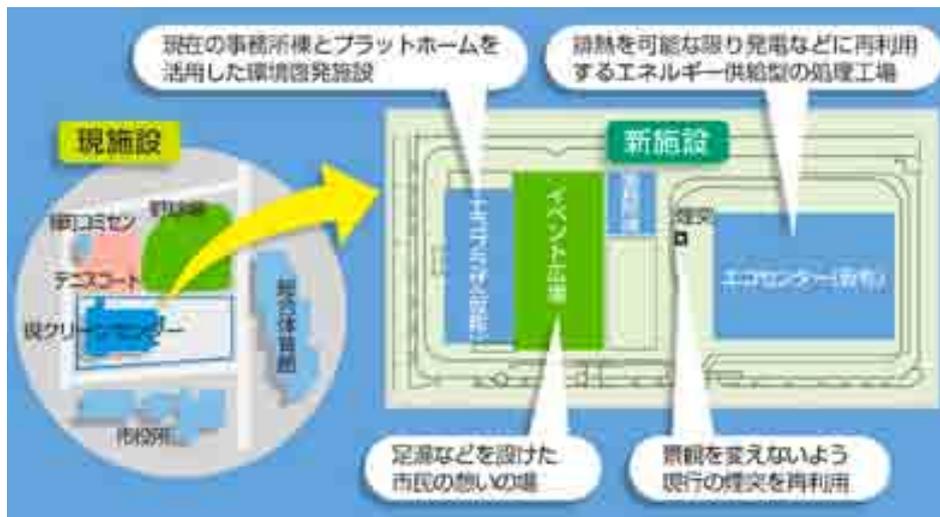
(3) 情報の収集・提供機能の強化

必要な情報を必要な時に市民に届けるとともに、市民の声を真摯に受けとめることが市政への信頼を高めることになる。また、情報の公開・提供は市民自治による市政運営を推進するための前提である。市役所の情報の収集・整理・提供の能力を高め、市民一人ひとりに必要な情報がわかりやすく届く広報機能と、市民の意見を市政に反映させるための広聴機能の強化連携を図る。

(4) 市民施設のネットワークの再編

コミュニティレベルのコミュニティセンター、三駅圏レベルの図書館、全市レベルの文化会館・総合体育館など、市民サービスの提供と地域の活動拠点の整備が進められてきた。しかし、老朽化が進むとともにバリアフリーや行政需要の変化への対応が課題となっている。市民の多様なニーズに効果的に応えることができる市民施設のネットワークの再構築に取り組む。

(5) 新クリーンセンターの建設と周辺まちづくりの推進



新クリーンセンター（イメージ図）

平成29年度の稼働を目指して、新武蔵野クリーンセンター（仮称）の建設及び周辺まちづくりに関する計画が進められている。これは周辺地域の住民をはじめとして、多くの市民が参加しながら、議論を積み重ねてきた成果である。市民とともに、ごみの発

生抑制・排出削減に努めながら、新クリーンセンターへの移行を実現する。

(6) 上下水道の再整備

上下水道は早期に整備されたことから、再整備の時期を迎えている。また、市内に下水道の終末処理施設を持たないことや、上水道の災害時の安定供給のためには、広域的な観点からの整備を推進していくことが不可欠である。多大な財源が必要になるが、市民生活の最も重要なライフラインであるので、早期に財源の見通しをたて、着実な再整備に取り組む。



第一浄水場

(7) 三駅圏ごとのまちづくりの推進

駅を中心として、個性あるまちが形成されているが、まちは生き物であり、常に人を引き付ける魅力がなくてはならない。そのため、三駅圏ごとに計画・ビジョンに基づくまちづくりを推進する。その際、三駅圏ともに、既存施設の役割、機能にとらわれることなく、まちの将来的なビジョンに基づく公共施設の効果的な配置を描き、実現に向けて検討を進める。



吉祥寺駅周辺



三鷹駅周辺



武蔵境駅周辺